

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	高尾昭夫先生のご逝去を悼む
著者 Author(s)	TSURUSAKI, Nobuo
掲載誌・巻号・ページ Citation	山陰自然史研究 , 15 : 69 - 71
刊行日 Issue Date	2018-09-20
資源タイプ Resource Type	学術雑誌論文 / Journal Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	© 鳥取県生物学会 The Biological Society of Tottori
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6218

訃報 Obituary

高尾昭夫先生のご逝去を悼む

鶴崎展巨

〒 680-8551 鳥取大学湖山町南 4-101
鳥取大学地域学部棟 農学部

Nobuo TSURUSAKI: Obituary — Dr. Akio Takao (1930–2017), Prof. Emeritus of Tottori University and former president of the Biological Society of Tottori

鳥取大学名誉教授で鳥取県生物学会の1993～1994年度の会長(第4代会長)を務められた高尾昭夫先生が、2017年11月4日早朝に87才で亡くなりました。私はその報を、琉球大学で開催された日本蜘蛛学会の大会中であった4日の夜に、私のスマホへの永松大さんからの留守電で知りました(電話があったのは午前中でしたが、マナーモードにしていたので夜まで気づかなかった)。4日の夜に通夜、5日に告別式とのことでしたが、私は大会終了後の5日の午後に地元の洞穴生物調査の専門家の方に沖縄本島の洞穴を案内いただくことになっていたこともあり、6日まで帰れず、残念ながら葬儀には出席できませんでした。

高尾先生が鳥取大学を退職されてから20年以上がたち、鳥取大学の教員の中にも、あるいは当会の会員の中でも、高尾先生のことを知る人が少なくなりました。私は高尾先生が退職されるまでの10年近く、学部は違いましたが、同じキャンパスでご一緒させていただき、そのご薫陶にふれる機会がありましたので、高尾先生のご経歴などを記して先生を偲びたいと思います。

高尾先生は、三重県津市阿漕町で1930年(昭和5年)5月24日にお生まれになりました。1955年3月に名古屋大学生物学科を卒業されたあと、同大学の大学院理学研究科博士課程(生物学専攻)に進まれました。名古屋大学に提出された学位論文のタイトルは「Histochemical studies on the formation of some leguminous seeds. 数種のマメ科植物の種子形成における組織化学的研究」で、これにより1961年2月23日に理学博士の学位を取得されたのち、1961年10月に鳥取大学学芸学部助手として鳥取に着任されました。

鳥取大学での経歴は下記のとおりです。

1961年(昭和36年)10月 鳥取大学学芸学部助手
1965年(昭和40年)4月 鳥取大学学芸学部講師
1966年(昭和41年)4月 鳥取大学教育学部講師(学部名称変更)。8月下旬から湖山キャンパス。



高尾昭夫先生。鳥取大学農学部大講義室での最終講義(1996.2.1)。

1967年(昭和42年)4月 鳥取大学教養部講師(配置換)
1968年(昭和43年)3月 鳥取大学教養部助教授
1977年(昭和52年)10月 鳥取大学教養部教授
1985年(昭和60年)4月～1989年(平成元年)3月
鳥取大学教養部長(併任)
1989年(平成元年)4月～1993年(平成5年)3月
鳥取大学学生部長(併任)
1995年(平成7年)4月 鳥取大学農学部教授(配置換)
1996年(平成8年)3月 鳥取大学ご退職
2009年(平成21年)5月 瑞宝中綬章受章

高尾先生が着任された当時の学芸学部(教育学部の前身)は鳥取市立川町岩倉にありました。1966年に鳥取大学が現在の湖山に統合移転したのにも関わらず、学芸学部は教育学部に名称変更し、さらに1967年に教養部が正式発足したのと同時に高尾先生は教養部(建物は現在の共通教育棟)に移られたようです。

かように母体が同じ学部であったことから、多くの教科で教養部と教育学部の教員は日頃から何かと関わりがあり、理科についても同様でした。その頃、教育学部の中学校教員養成課程の理科専攻生と小学校教員養成課程のうち理科で卒論を書く学生、および教員で組織する理科専修専

攻会というのがありますが、そこでの入学歓迎会や教育学部の卒論発表会、卒論発表後のコンパなどにも教養部の先生方はよく来られていました。私が鳥取大学に赴任したのは1987年4月ですが、4月24日に鳥取市摩尼山の門脇茶屋であった生物教官による私の歓迎会には、教育学部の江原昭三、清水寛厚、藤島弘純の3先生のほか、教養部から高尾昭夫先生、福田啓子先生、太田康彦先生にもお越しいただきました。着任直後の4月1日に清水先生に連れられて、教養部の生物教室にご挨拶にうかがったので、高尾先生に最初にお会いしたのはその時だったかもわかりません。

私が最初に使わせていただいた研究室(2スパンの実験室を教員室として使っていました)は教育学部の中庭に面する側にありましたが(耐震補強工事で部屋の配置などがだいぶ変わりましたが、現在私がいる研究室とほぼ同じ位置)、一角にドラフトチャンバーがあり、元々は高尾先生が使っておられた研究室だと聞きました(高尾先生のあと清水先生が入られ、そのあとに私が入った)。

私が着任したときには高尾先生はすでに教養部長をされていてご多忙だったので、実験や講義で私が高尾先生と一緒にする機会はありませんでしたが、1989年から1994年まで5年間、教養部の前期の生物学実験の手伝いに出かけました。この実験は一般教養の生物学実験ですが、受講者には教育学部生は皆無で、ほとんどが農学部(たぶん農学部生の必修に指定されていた)でした。そのため担当者も教養部の生物教員だけでなく農学部の教員が関わっていたと思いますが、私がお手伝いしたのは、太田康彦先生と福田啓子先生が担当された回だけで(そのまた一部であったかもしれない)、ゾウリムシの観察や、ヒトの血球観察、ネズミの解剖など、2~3回分のみでした。これらの実験の説明はすべて太田先生か福田先生がされ、私は非常勤講師として手当をもらっていたにもかかわらず、実質ただのティーチングアシスタントくらいの役割しか果たせず申し訳ない気持ちでした。この実験は16時過ぎまでありましたが、教員は15時くらいになると小休憩のために実験準備室でコーヒーをいただき、たわいのないおしゃべりをするのがルーティンでした。教養部長(途中からは学生部長)だった高尾先生は、ご多忙だったはずですが、ときどきはお茶を飲みに来られてだべって行かれました。高尾先生が顧問をされ、福田先生も面倒を見られていた学生サークルの生物研究会の学生も何人か毎度のように顔を出していたように思います。ちなみにこの生物研究会の顧問は高尾先生のあと私が引き継ぎ、サークルの忘年会のような会に誘われて行ったこともあったのですが、生物研究会は何かの問題をきっかけにまもなく自然消滅してしまいました。それを阻止できなかったのがいまでも非常に残念です。

教養部での、この生物学実験の手伝いは、改組により1994年度末をもって教養部がなくなったことにともない、なくなりました(学生実験自体はその後またぶん継続していたと思う)。理学系学部の出身者が多かった教養部の理科関係教員は、教育学部に移るのが自然と私などは思っていました。学部間のポストの綱引きもあったのか、理科関係の先生方は農学部と工学部に分属されることになり、高尾先生は1995年4月に農学部に移られました。よって、翌1996年2月1日の15時からの高尾先生の最終講義は農学部の大講義室でありましたが、研究室は最後まで教養部のほうにありました。3月12日に安長の勇女(いさな)という魚のおいしかった日本料理屋(現在はなくなっている)で教育学部と旧教養部の生物教員で高尾先生の送別会をし、1996年4月27日にもニューオータニでご退官記念のパーティがありました。

高尾先生が専門とされていた種子植物やコケ類を材料とした植物生理学には私はまったく疎いので、高尾先生のご研究内容をきちんと解説することは私にはできませんが、教養部長や学生部長を長く務められてご多忙であったことや、教養部であったために原則として卒業論文の学生を持たれなかったこともあって、私が鳥取大に着任した頃にはすでに研究の第一線からは退かれており、唯一継続されていたのが、奥様の静代様と二人三脚でやられていたツリフネソウ属*Impatiens*の胚発生であったようです。この属は日本には野生種は4種(本稿を書くまで3種だと思っていましたが、日本維管束植物目録(米倉 2012, 北隆館)で確認したらワタラセツリフネというのが加わっていることを知りました)しかありませんが、東南アジアやアフリカなどに800種以上あり、高尾先生も研究材料の採集のため、ご夫妻でインドやインドネシアに行かれていたようです。ツリフネソウ属は私がザトウムシの採集でよく行くブナ帯の林床でよく見る植物で、私は4種(栃木県や群馬県などのワタラセツリフネの分布域にも何度も行っているのに、知らないままに見ていたことにします)とも非常に馴染みがありました(これらの花が咲いているような、適度な湿気のある林内にはザトウムシも多い)。また、私も鳥取に来て2年目の1988年にインドネシアのスマトラ島に行く機会がありましたが、確かに山に入ると、花の形ですぐに本属とわかる植物をよく見かけました(写真)。そんなこともあって東南アジアへの採集旅行のことで情報交換をしたこともありましたが(私の日記のメモでは高尾先生は1998年の夏にはインドに採集に行かれています)。この属の胚発生が面白いのは、胚嚢形成にタデ型、ネギ型、キク型といった種々の多様性があり、それが多数の種を含む本属内の系統解析や分類にも応用できるということのようでした(本誌の前身である「鳥取生物」の第30号に総説を書かれていますので、それをご覧ください)。

鳥取県生物学会と高尾先生のつながりは古く、学芸学部時代の1962年（これは助手として着任された翌年）や1965年には本学会の研究発表会で講演もされているようです。これらの講演の内容は、ご専門であった植物の胚形成ではなく、科学としての生物学の在り方のようなものについてのご論考だったよう。これは「鳥取生物」の第1号に出ていた研究発表抄録から知ったものですが、たしかに、高尾先生は生物学の方法論や科学哲学、あるいは科学的なものの考え方に強い興味がおありのようでした。そこには、大学生に一般教養として生物学を教えるときに、そこに焦点をあてたいという高尾先生の強い思いもあったのではと思います。高尾先生が退職される直前の1996年、ご自身が自費購入された図書でご自宅に持ち帰る予定のないものがあり、要るものがあつたらあげるといわれて2月27日に研究室に伺ったことがあります。生物研究会や教育学部の理科の学生がすでにだいぶ持ち出したあとで、たいしたものももう残っていないと言われていましたが、私が行ったときにもまだかなりたくさんあり、10数冊いただいで帰りました。そのときに、生物のみならず科学一般を含め、ずいぶん多様な分野の本があつたのが印象的でした。

高尾先生が鳥取県生物学会の会長を務められたのは、1993年度と1994年度の1期2年でした。ご退職までには1年を残していましたが、任期途中で退職になるということで次の藤島先生にバトンタッチされたものと思います。

ご退職後は、ときおり大学生協の本屋でお見かけしていました。ご自宅が大学に近い布勢だったので散歩ついでに時々立ち寄られたようです。また、2009年（平成21年）5月2日には智頭町籠山での本会のスミレ観察会にも来ていただきました。ただ、この日の観察会はちょっとした山登りがあって、すでに79才近くになられていた高尾先生にはだいぶお辛かったようです。申し訳ないことをしました。この年には春の叙勲で瑞宝中綬章を受けられ、太田康彦先生の音頭で、同年の7月3日に梅の井で高尾先生の叙勲祝賀会があり、私も参加させていただきました。旧教養部の理科関係の教員を中心とした久しぶりの集まりで、和気藹々とした会でした。

私が高尾先生に最後にお会いしたのは、2014年2月8日に服部のメモワールいなばであった赤木三郎先生（地学がご専門で、ちょうど高尾先生が教養部長であった頃、教育学部の学部長を務められた）の告別式でした。高尾先生は脚がだいぶ弱られており、奥様につきそわれて車いすに座られていました。ところが、その奥様の静代様が2014年9月28日に亡くなられ、その後はずいぶんお寂しかったのではなからうかと思えます。この数年は鳥取市野寺の特別養護老人ホーム「のではまゆう」で過ごされていましたが、私の出す賀状には最後まで返信をいただいていたのでまだまだお元気だと思っておりました。



スマトラ島 Padang の Air Sirah にあつたツリフネソウ属の1種（1988.8.2 鶴崎撮影）ツリフネソウ属は先生のお好きな植物であつた。

高尾先生はお話好きで、気さくで、軽やかでさっぱりとしたお人柄でした。教養部長や学生部長を歴任されたのも、周囲から厚い信頼を集め、慕われたからでしょう。鳥取大学や鳥取県生物学会での活動を通じて高尾先生のご薫陶にふれる機会をもてたことに感謝しつつ、ご冥福をお祈りしたいと思います。

最後に、高尾先生が書かれたもので「鳥取生物」に掲載されているものの一覧を下に載せておきます：

- 高尾昭夫（1966）生物学では何を学ぶべきか。（研究発表抄録 昭和37年度中の講演要旨のみ）。鳥取生物，1：14，研究発表の日付は記載なし
- 高尾昭夫（1966）最近の生物学 一近刊書を中心にして一。（研究発表抄録 昭和40年度中の講演要旨のみ）。鳥取生物，1：21。
- 高尾静代・高尾昭夫（1984）東南アジアにツリフネソウを求めて。鳥取生物，18：4-7。
- 高尾昭夫（1988）尾崎繁夫先生を偲んで。鳥取生物，22：33。
- 高尾昭夫（1993）会長に就任して。鳥取生物，27：26。
- 高尾静代・高尾昭夫（1997）ツリフネソウ属植物の胚発生について—十数種についての概観—。鳥取生物，30：9-14。
- 高尾昭夫（1997）研究のすすめ。鳥取生物，30：39-41。

謝辞：

高尾先生の鳥取大学でのご経歴のデータの入手については、本学農学部庶務係長の森藤郁美さんにご助力いただきました。また、高尾先生のご令弟の高尾眞様（三重県津市）には、先生のご出身地など、不明であつたいくつかの事柄についてご教示をいただきました。また、清水寛厚先生にも不確かであつた一部の点についてご教示をいただきました。以上の方々には厚く御礼申し上げます。